

RSウイルス妊婦ワクチンQ&A

日本産婦人科医会
母子保健部 / 先天異常部
(2026年3月20日)

目次（1）

4. RSウイルス妊婦ワクチンが定期接種になっている国はありますか？
5. RSウイルス感染症が流行していないようなので接種の必要を感じません、そのような場合でも接種を推奨されますか？
6. RSウイルス感染症はただの風邪だと認識しています、本当に妊婦ワクチンの接種を推奨する必要がありますか？
7. RSウイルス感染症にかかるとどのような後遺症リスクがありますか？RSウイルス感染症で入院したこどもは喘息の発症リスクが高まると聞きましたが本当ですか？
8. RSウイルス感染症は、乳児期早期には無呼吸発作を、乳児期から幼児期には急性脳症を起こす可能性があると言いましたが事実でしょうか？
9. RSウイルス感染症による入院率を教えてください、RSウイルス感染症は、重症化リスクのある併存疾患がなくても入院することがあると聞きましたが、事実でしょうか？
10. RSウイルス妊婦ワクチンでいわれている母子免疫ワクチンとは？
11. RSウイルスに対する妊婦ワクチンと抗体製剤のちがいは？
12. RSウイルス妊婦ワクチンを接種することで、母体の抗体価もあがるのでしょうか？
13. RSウイルス妊婦ワクチンを接種することで、胎児/新生児に問題はありますか？
14. RSウイルス妊婦ワクチンを接種しても、新生児感染は起こりえますか？一方で、何割程度の重症化予防ができますか？
15. RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合、どのくらいの期間、効果が期待できますか？
16. RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合、どのような副反応がありますか？
17. 接種して母体および胎児に強い副反応がでたときの補償はありますか？副反応がでた場合、国は責任をもってくれるのですか？

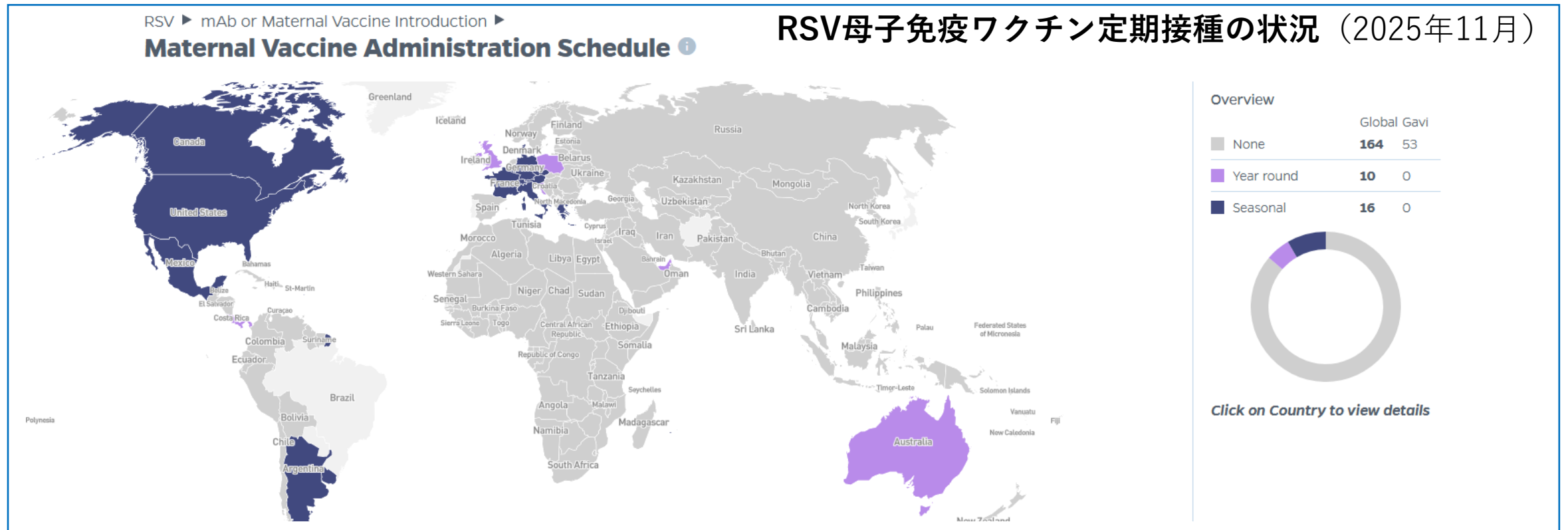
目次（2）

- 1 8. RSウイルス感染症に感染したことがありますか、接種の必要はありますか？
- 1 9. 里帰りしますが補助はできますか？
- 2 0. RSウイルス妊婦ワクチンの定期接種の対象について教えてください
- 2 1. 他のワクチンとの同時接種・接種間隔はどうすればいいですか？百日咳ワクチンと相互作用があると聞きましたが同時接種できますか？
- 2 2. RSウイルス妊婦ワクチン接種後に生活上で注意することはありますか？車を運転できますか？お風呂に入れますか？発熱や痛みに対して、市販の解熱鎮痛薬を飲んでもよいですか？
- 2 3. RSウイルス妊婦ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか？
- 2 4. RSウイルス妊婦ワクチンの接種に、注意が必要な方について教えてください
- 2 5. 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあります、今回も起こすのではないかと心配なのですが、接種されても大丈夫でしょうか？
- 2 6. RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合の早産のリスクは？
- 2 7. 過去に早産の経験がありますが、ワクチンを接種できますか？
- 2 8. RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合の妊娠高血圧症候群のリスクは？
- 2 9. 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いというのはどのような方ですか？
- 3 0. 妊娠高血圧症候群の既往がありますが、ワクチンを接種できますか？
- 3 1. 双胎妊娠ですが、ワクチンを接種できますか？
- 3 2. RSウイルス妊婦ワクチン接種と母体死亡/ギラン・バレー症候群は？
- 3 3. RSウイルス妊婦ワクチン接種によって病気になることはありませんか？長期的な影響はまだ分かってないので接種することが心配です
- 3 4. RSウイルス妊婦ワクチンを接種したところは、母子手帳のどこに記録されますか？

問 RSウイルス妊婦ワクチンが定期接種になっている国はありますか？

回答

- 2025年11月の時点で、欧米の多くは季節性（流行期前）に、また、イギリスやオーストラリアなど一部においては通年で定期接種されています



**問 RSウイルス感染症が流行していないようなので接種の必要を感じません
そのような場合でも接種を推奨されますか？**

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンは、通年で定期接種することが勧められます

解説

RSウイルスの日本での流行は、かつては秋から冬に見られましたが、最近では夏から秋にかけての流行が増加しており、また、2024年では、春ころから流行がはじまって、もはや定まった時期に流行するウイルス感染ではなくなってきました

そのため、妊婦ワクチンの接種時期にRSウイルスの流行時期を予測することは不可能になってきているので、通年でのワクチン接種が勧められます

**問 RSウイルス感染症はただの風邪だと認識しています
本当に妊婦ワクチンの接種を推奨する必要がありますか？**

回答

- 乳児のRSウイルス感染症は、年少から60歳未満の方にとっては「ただの風邪」といえますが、乳児期の初感染の場合は重症化することが多く、また、感染後は喘鳴や喘息などの発症率も高くなります
- RSウイルス感染症は、ほぼ100%の乳幼児が、2歳までに少なくとも1回は罹るとされている感染症で、有効な治療法がないため、妊婦ワクチンなどによる予防が重要となります

解説

乳児のRSウイルス感染症初感染では、3割が重症化し、結果として1/4が入院を必要とし、そのうちの約7%に人工換気が必要となります（2歳未満の乳幼児で、年間約10万例がRSウイルス感染症と診断され、その4分の1が入院を必要としています）

RSウイルス感染症には、抗ウイルス薬などの治療法はなく、重症化した場合は、3歳、7歳、13歳時点の喘息の有病率が高くなると報告されています

**問 RSウイルス感染症にかかるとどのような後遺症リスクがありますか？
RSウイルス感染症で入院したこどもは喘息の発症リスクが高まると聞きましたか？**

回答

- 乳児期のRSウイルス感染症が重症化した場合は、喘息の発症リスクが高まります

解説

海外の研究で、1歳までにRSウイルス感染症で入院したお子さんでは、そうでないお子さんと比較して、3歳、7歳、13歳時点の喘息の有病率が、いずれも高かったことが報告されています

- 1) Sigurs N et al.: Pediatrics 95(4): 500, 1995
- 2) Sigurs N et al.: Am J Respir Crit Care Med 161(5): 1501, 2000
- 3) Sigurs N et al.: Am J Respir Crit Care Med 171(2): 137, 2005

問 RSウイルス感染症は、乳児期早期には無呼吸発作を、乳児期から幼児期には急性脳症を起こす可能性があると聞きましたが事実でしょうか？

回答

- 特に生後6か月未満の乳児では、細気管支炎の重症化によって、20秒以上の無呼吸や徐脈を伴う「無呼吸発作」を起こす可能性があります
- 稀ですが、発熱にともなって、けいれんや意識障害などの急性脳症を起こす可能性があります

解説

RSウイルス感染症は、特に乳幼児が重症化すると重篤な合併症を引き起こすことがあります、合併症として無呼吸発作や急性脳症があります

問 RSウイルス感染症による入院率を教えてください
RSウイルス感染症は、重症化リスクのある併存疾患がなくても入院することがあると聞きましたが、事実でしょうか？

回答

- 2歳未満の乳幼児で、年間約10万例がRSウイルス感染症と診断され、その4分の1が入院を必要としています
- 生後6カ月未満の乳児が、RSウイルス感染症入院例の約40%を占めています
- 一方で、下気道感染症によって入院加療した2歳未満の乳幼児のうち、27%がRSウイルスが陽性で、また、人工換気が必要とした重症者のうち、40～45%がRSウイルスが陽性だったことが報告されています。
- RSウイルス感染症で入院した2歳未満の乳幼児の約90%は、RSウイルス重症化リスク（早産、ダウン症候群など）のない児であったと報告されています
- 以上より、リスク因子の有無にかかわらず、2歳未満の乳幼児に対するRSウイルス感染症の予防が重要であると考えられています

問 RSウイルス妊婦ワクチンでいわれている母子免疫ワクチンとは？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンなどに代表される母子免疫（Maternal immunization）とは、妊婦にワクチンを接種することで、妊婦の能動免疫によって産生された抗体が胎盤を通過して胎児に移行し、生まれた直後から、妊婦（母親）からの抗体によって受動的に児を特定のウイルスから守る方法です
- 母子免疫の適用となる主な感染症は、RSウイルス以外に、百日咳、インフルエンザなどがあります

解説（参考：抗原と抗体）

ヒトは、外部から侵入したウイルスなどの異物（抗原）を、免疫というシステムによって排除しています

免疫システムによって、特異的に抗原を排除するために産生されるタンパク質を抗体といいます

問 RSウイルスに対する妊婦ワクチンと抗体製剤のちがいは？

回答

- 以下のような違いがあります（現時点において、RSウイルス感染症の重症化リスクがない児に対する抗体製剤は助成対象になっていません）

妊婦ワクチン（母子免疫ワクチン）	抗体製剤
能動免疫	受動免疫
妊婦が対象	新生児・乳児が対象
抗原を妊婦に投与し、妊婦のなかで抗体がつくられて経胎盤的に児に移行	精製された抗体を児に直接注射する
出生直後から数ヶ月間有効	製剤によって1ヵ月～数ヶ月間有効

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種することで、母体の抗体価もあがるのでしょうか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンを妊娠中の母親に接種することで、母体の能動免疫によって中和抗体が産生され、母体の抗体価があがります

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種することで、胎児/新生児に問題はありませんか？

回答

- これまでの国際共同大規模試験において、一時、早産リスクに対する懸念が示されていましたが、ワクチンが直接的な原因とは認められていません
- その他、胎児/新生児にとって問題が起こった報告はなく、安全性が高いワクチンであると評価されています

**問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種しても、新生児感染は起こりえますか？
一方で、何割程度の重症化予防ができますか？**

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンを接種しても、新生児・乳児感染は起こります
(妊婦ワクチンが新生児・乳児感染を100%予防してくれるわけではありません)

(参考：大規模国際共同試験の結果)

- RSウイルス妊婦ワクチンは、RSウイルス感染によって医療受診を必要とする下気道感染症の発症を、接種しなかった方と比較して、生後90日の時点で6割程度、生後180日の時点で5割程度の予防効果があります
- RSウイルス妊婦ワクチンは、RSウイルス感染によって人工換気を必要とする重症下気道感染に対して、接種しなかった方と比較して、生後90日の時点で8割程度、生後180日の時点で7割程度の予防効果があります

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合、どのくらいの期間、効果が期待できますか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンの接種から2週間以内は、全く抗体が産生されないというわけではないですが、抗体産生が不良で、児のRSウイルス感染の予防効果は十分に認められていません
- 妊娠28～36週にRSウイルス妊婦ワクチンを接種して、2週間以上経過してから生まれた児では、RSウイルス感染によって医療受診を必要とする下気道感染症の発症を、生後180日の時点で、接種しなかった方と比較して、5割程度予防する効果があり、また、RSウイルス感染によって人工換気を必要とする重症下気道感染に対して、生後180日の時点で、接種しなかった方と比較して、7割程度予防する効果があります

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合、どのような副反応がありますか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンの主な副反応は、接種部位の痛み（約40%）、頭痛、筋肉痛、赤み、腫れ、発疹、蕁麻疹、倦怠感などで、多くは軽症～中等症で、接種後2日～3日程度で自然に消失するとされています
- 稀ですが、アナフィラキシーや血管迷走神経反射（心因性反応を含）が起こることがあるので注意が必要です
- 早産については、日本人ではワクチン接種によって差がなく、副反応としては否定されています
- 妊娠高血圧症候群については、機序は明らかではありませんが、わずかながら発症率が高かったという報告があります。しかし、乳児における重症RSウイルス感染症予防に対するワクチンの高い有効性を考慮すると、妊婦へのワクチン接種を妨げるものではないと考えられています（また、妊娠高血圧症候の発症率は一般に5～10%と高率であることから、妊娠高血圧症候群を発症しただけでは副反応としての報告基準・救済対象にはなりません）

**問 接種して母体および胎児に強い副反応がでたときの補償はありますか？
副反応がでた場合、国は責任をもってくれるのですか？**

回答

- 接種した妊婦と生まれた児の両方が、予防接種法健康被害救済制度の対象になります
- 接種後に健康被害が疑われる副反応（疑い）があった場合は、実施医療機関から国（厚労大臣）に速やかに報告され、健康被害の迅速な救済などが図ら（審議さ）れます

解説

健康被害救済については、市町村に申請され、国（厚労大臣）の認定によって実施されます

一方で、現時点においては、妊娠高血圧症候群を発症しただけでは副反応としての報告基準・救済対象にならないことが国の審議会で決定されています

問 RSウイルス感染症に感染したことがありますが、接種の必要はありますか？

回答

- RSウイルス感染症に罹患しても、1～2年後には抗体が低下することから、RSウイルス感染症の罹患歴や過去の妊娠時に母子免疫ワクチンを接種したことのある方も、RSウイルス妊婦ワクチン接種の対象となります

解説

RSウイルス感染後、抗体価は1～4週間でピークに達しますが、その後は3～6ヶ月かけて徐々に低下し、約1～2年でほぼ感染前のレベルに戻ることから、その時期以降は、再感染は頻繁に発生するとされています

また、RSウイルス感染症は、自然感染後、2～8ヶ月で抗体価が低下し、再感染のリスクが高まるという報告もあります

問 里帰りしますが補助はできますか？

回答

- 予防接種法に基づいた定期の予防接種になりますので、里帰り先で接種しても補助はできます

解説

定期の予防接種の実施は市町村であり、最終的な費用負担は市町村が負うことになります

住民票のない市町村では、ワクチンの「接種通知票（＋予診票）」が届かないことがありますので、ご不明な方は住民票のある市町村にお問合せください（例：東京都へ里帰りした方は、接種医療機関にある予診票を使用して接種しますが、費用は住民票のある市区町村からの償還払いになります）

問 RSウイルス妊婦ワクチンの定期接種の対象について教えてください

回答

- 接種時点で、妊娠28週 0 日から36週 6 日までの妊婦が対象になります
- 現時点で、過去にRSウイルス感染症に罹患した妊婦や、過去の妊娠時にRSウイルス妊婦ワクチンを接種したことのある経産婦も対象になります

解説

接種後14日以内に出生した新生児・乳児における有効性は確立していないことから、2週間以内に出産を予定している場合は、医師に相談する必要があります

**問 他のワクチンとの同時接種・接種間隔はどうすればいいですか？
百日咳ワクチンと相互作用があると聞きましたが同時接種できますか？**

回答

- 医師が必要と認めた場合に、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン等の他のワクチンと同時接種することは可能です
- 海外の百日咳菌抗原（防御抗原）を含むワクチンとの同時接種で、百日咳菌に対する免疫応答が低下したという報告があり、接種間隔等については医師と相談する必要があります

解説（参考：百日咳妊婦ワクチン）

海外で母子免疫ワクチンとして用いられているTdapは国内未承認です

日本で定期接種として導入されてきた百日咳含有ワクチンのうち、小児用3種混合ワクチンDTaP（トリビック®）は妊婦の安全性と乳児への百日咳に対する抗体移行が確認されているため、日本において母子免疫ワクチンを目的としたDTaPの代用が期待されていますが、現時点において、乳児百日咳の重症化予防効果は証明されていないことに留意する必要があります

**問 RSウイルス妊婦ワクチン接種後に生活上で注意することはありますか？
車を運転できますか？お風呂に入れますか？
発熱や痛みに対して、市販の解熱鎮痛薬を飲んでもよいですか？**

回答

- まれですが、数時間は血管迷走神経反射（自律神経の反応による心拍数低下や血圧低下、一時的な失神が起きる可能性）がありますので、背もたれや肘掛けのある椅子に座っているなど、転倒やケガを防ぐ必要があります

解説

数時間は上記のような注意が必要で、運転も避けるべきです。また、当日は、激しい運動や長時間あるいは熱い湯への入浴は避けたほうがいいでしょう

高熱や全身の発疹、呼吸苦がある場合は受診が必要です

軽い発熱や痛みなどに対しては解熱鎮痛剤で対処可能ですが、胎児に影響する解熱鎮痛剤もあるため、飲む前に医師に確認することが必要です

接種部位を清潔に保ち（揉んだり、強くこすったりしない）、発熱などに備えて水分補給を十分に行うことが勧められます

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンの成分（RSウイルスワクチンおよび不活性成分）に対して、過去に重度のアレルギー反応（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある人は、原則として接種できません

その他、

- 重篤な急性疾患に罹っている方
- 発熱している方
- その他、RSウイルス妊婦ワクチンを接種するのに不適當な状態にあると医師が判断した方、も原則として接種できません

問 RSウイルス妊婦ワクチンの接種に、注意が必要な方について教えてください

回答

- 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方は医師に相談する必要があります
- 筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、また、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です

その他、

- 心臓血管系疾患・腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患など基礎疾患のある方
- これまでワクチンを接種して2日以内に発熱や全身発疹などがあった方
- けいれんを起こしたことがある方
- （近親者も含めて）免疫不全と診断されている方
- RSウイルス妊婦ワクチンにアレルギーを起こす可能性のある方、

は注意が必要です

問 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあり、
今回も起こすのではないかと心配なのですが、接種しても大丈夫でしょうか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンの成分（RSウイルスワクチンおよび不活性成分）
に対して、過去に重度のアレルギー反応（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある人は、原則として接種できません
- 過去にRSウイルス妊婦ワクチン以外のワクチンでアナフィラキシーを起こした経験がある場合や、アレルギー体質（特に重度の食品・薬剤アレルギー）がある場合は、必ず事前に医師に伝えて、接種の可否を判断する必要があります

解説

重篤なアレルギー（アナフィラキシー）は稀ですが、起こることがあります
アナフィラキシーの多くは接種後30分以内に発生するため、30分の待機時間が推奨されています

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合の早産のリスクは？

回答

- 早産については、日本人のデータではワクチン接種によって差がなく、副反応としては否定されています

解説

最初に実施された国際共同大規模試験の結果で、RSウイルス妊婦ワクチン投与群では早産の発症率が、ワクチンを接種していない群と比較して高率となる結果が得られました

しかし、その後の検討では、RSウイルス妊婦ワクチンを投与された妊婦と投与されなかった妊婦の早産率に差がなく、また、日本人妊婦での比較データでも、ワクチン接種によって早産の発症率に差は認められませんでした

問 過去に早産の経験がありますが、ワクチンを接種できますか？

回答

- 過去に早産の経験があってもワクチンの接種は可能です
- 早産は、ワクチン接種の有無にかかわらず繰り返すことがありますので、RSウイルス妊婦ワクチンを接種する時期については医師と相談する必要があります

解説

RSウイルス妊婦ワクチンの承認当初、早産が増える可能性が危惧されましたが、当時も有意差というほどの差はなく、また、日本人妊婦だけでの比較では早産は増えてなかったことから、早産は、他の因子によるものではないかと考えられており、ワクチンに特有の有害事象ではないとの結論になっています

ワクチン接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、早産のリスクのある方は、接種する時期について医師と相談する必要があります

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種した場合の妊娠高血圧症候群のリスクは？

回答

- 海外の一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクがわずかに増加したという報告がありましたが、他の因子等の影響の可能性があることから、データの解釈には注意が必要であると評価されています
- 一方、最近の臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクはRSウイルス妊婦ワクチン接種によって増加していません
- RSウイルス妊婦ワクチンによる乳児の重症RSウイルス感染予防については高い有効性が示されており、総合的に評価すれば、妊娠高血圧症候群発症の危惧によって、RSウイルス妊婦ワクチンの使用が妨げられるべきではないという見解が示されています

問 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いというのはどのような方ですか？

回答

- 妊娠高血圧症候群の既往がある方、糖尿病や高血圧症の既往や家族歴がある方、腎臓病のある方、肥満、40歳以上の方、多胎妊娠、初産婦が、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いとされています

解説

RSウイルス妊婦ワクチンが妊娠高血圧症候群発症リスクをわずかに増加させたという報告がありますが、妊娠高血圧症候群発症リスクについて結論づけるには、さらなる研究が必要であるとされています

一方で、乳児の重症RSウイルス感染予防について高い有効性が示されており、総合的に評価すれば、妊娠高血圧症候群発症の危惧によって、RSウイルス妊婦ワクチンの使用が妨げられるべきではないという見解が示されています

問 妊娠高血圧症候群の既往がありますが、ワクチンを接種できますか？

回答

- 妊娠高血圧症候群の既往がある場合でも、RSウイルス妊婦ワクチンを接種することは可能です

解説

過去の妊娠で妊娠高血圧症候群（または子癇）があった場合でも、現在、血圧が安定しており、医師が問題ないと判断すれば接種できます
一方で、現在すでに高血圧がある場合や体調不良がある場合は、医師に相談が必要です

問 双胎妊娠ですが、ワクチンを接種できますか？

回答

- 双胎妊娠でもRSウイルス妊婦ワクチンを接種することは可能です

解説

RSウイルス妊婦ワクチンの大規模試験は主として単胎妊娠を対象として行われたため、双胎妊娠への安全性や有効性を示した詳細なデータはありませんが、単胎妊娠と同様に母体（妊婦）に作られたRSウイルスに対する抗体が胎盤を通して胎児に移行し、出生時から児をRSウイルス感染から守る効果が期待されています

双胎妊娠は単胎妊娠と比較して早産や低出生体重児のリスクが高くなることから、ワクチンを接種する時期については医師と相談する必要があります

問 RSウイルス妊婦ワクチン接種と母体死亡/ギラン・バレー症候群は？

回答

- これまで、RSウイルス妊婦ワクチン接種との因果関係が認められた妊婦の死亡例は報告されていません
- 国際共同大規模試験で妊産婦死亡が1例ありますが、産後異常出血が関連した症例で、RSウイルス妊婦ワクチン接種との関連はないとされています
- RSウイルス妊婦ワクチンと同じワクチンの接種によって、ギランバレー症候群の発症がわずかながら高くなったという高齢者の報告がありますが、妊婦での発症は報告されていません
- 念のため、接種後に「手足に力が入らない」や「しびれる」などの症状が出た場合は担当医にご相談ください

**問 RSウイルス妊婦ワクチン接種によって病気になることはありませんか？
長期的な影響はまだ分かってないので接種することが心配です**

回答

- RSウイルス妊婦ワクチン接種は、2023年にFDA（アメリカ食品医薬品局）の認可を受けた新しいワクチンですが、現時点では、副反応として記載されている以外の状況は発症しておらず、また、発症に関連がある（と予測されている）病気はありません
- RSウイルス妊婦ワクチンは、仮に重篤な副反応や接種後の健康被害が疑われた場合は、予防接種法に基づいて速やかに国（厚労大臣）へ報告され、健康被害救済等について図られる（審議される）ことになります

問 RSウイルス妊婦ワクチンを接種したところは、母子手帳のどこに記録されますか？

回答

- RSウイルス妊婦ワクチンの接種は母子手帳に記録され、小児科の担当医に伝達されることは、乳児の健康管理のために重要です
- 現時点において、RSウイルス妊婦ワクチンの接種は、母子健康手帳の「予防接種の記録（5）その他の予防接種」に記載されます（下図）

予防接種の記録（5）
その他の予防接種

ワクチンの種類 Vaccine	接種年月日 Y/M/D (年齢)	メーカー名 Manufacturer or Brand name / Lot No.	接種者名 Physician	備考 Remarks
		アブリスボ 筋注用 RSウイルスワクチン		

図1 接種シールは母子手帳の予防接種の記録（5）に貼付してください